

# 養正市営住宅団地 未来のまちづくり ミーティング 通信 Newsletter VOL.2

養正市営住宅団地再生計画の「活用予定エリア」をどのようにしていくかを話し合う『未来のまちづくりミーティング』の第二回が開催されました。ここではミーティングでの発言内容の要旨をご紹介します。

## 開催概要

開催日	令和4年4月23日(土)午後2時～
開催場所	左京西部いきいき市民活動センター高齢者ふれあいサロン
司会	かもがわデルタフェスティバル実行委員会事務局長 杉山準
主催	かもがわデルタフェスティバル実行委員会・養正学区各種団体連絡協議会
オブザーバー	京都市住宅すまいまちづくり課 一般財団法人ハウジングアンドコミュニティ財団「コミュニティ活動助成」助成事業

養正市営住宅団地の歴史を学ぶ。  
団地再生への思いを団地住民に聞く。

## 開会の挨拶

養正学区各種団体連絡協議会会長  
かもがわデルタフェスティバル実行委員会委員長  
浅井吉弘

1回目のミーティングで京都市側から団地再生計画の大体の説明があり、70年近くこの地域に住んでいて大体のことは分かっているつもりだったが、知らないことや、新たな発見があった。70年近く住んでいてもそうなので、養正学区に新たに転入してきた人や団地外の人は、この地域のことはあまりよく分からないと思う。そこで今回は原点に戻って、部落の劣悪な住宅を改良するために改良住宅が建ってきた経緯や歴史的な背景と、今お住まいの方の気持ちをみんなで共有したい。

## 西村優汰さんからのお話

杉山 この団地で生まれ育って、歴史をご自身でいろいろ調べていらっしゃる西村優汰さんに、養正市営住宅団地の歴史についてお話しいたします。西村さんはまだ若いですが、地域の歴史などに非常に詳しい青年です。

西村優汰さん 養正地域は、歴史的に、被差別部落にルーツを持っている地域。部落差別は、全国的に大きな問題で、人権問題、差別問題の一つ。「部落」といわれる地域に生まれたり、住んでいるだけで、差別されたり、社会的に排除されるという問題。社会的排除とは、就職や結婚、部落外に居住などの際に、部落の出身という理由で断られることなど。就職や結婚、居住などの自由が奪われ、教育の機会均等などの保障もされていない状況にあった。日雇いや肉体労働など、低賃金のしかなく、特に明治以降は差別も厳しかったため、どんどん貧困になり、厳しい生活を送っていた。部落の貧困の影響で、住環境がどんどん劣悪になった。

## 昭和33年ごろの養正地域の映像を放映

- ・狭い路地の様子、小さな家が立ち並ぶ様子、共同ポンプ、共同便所、共同炊事場で洗濯をしている様子など
- ・全国的に生活水準が向上していった時代の中でも、日本各地の部落では低い生活水準。
- ・老朽化が進んでいる家が多く、不良住宅が密集している地域。構造自体がしっかり作られていない家もあり、

また、家が傷んできても、経済力がないために維持や修繕ができず、住環境の向上が極めて困難。

- ・また昭和30年の調査で、養正地域518世帯のうち約6割の世帯が、個別の便所や井戸、水道、炊事場などを持っておらず、共同で利用。一つの便所を10世帯近くが利用していたケースも。これらが長年放置され、感染症の蔓延など、衛生的にも多くの問題。
- ・住環境の抜本的な改善のため、国が部落問題を国民的な課題とし、『住宅地区改良法』(劣悪な住環境を改善)、『同和対策事業特別措置法』(広く部落問題の解決)がつくられ、それらの法に基づき、養正地域でも住宅地区改良事業が進められた。
- ・住宅地区改良事業＝行政が同和地区の土地をほぼ強制的に買収し、集合住宅を建てる事業

## 養正市営住宅11棟建設時の映像を放映

- ・まだ周りに古い家が残っている中で11棟が建設されている様子、各部屋にガスや水道が引かれた台所、水洗トイレ、洗面台などが設置されている室内の様子など(浴室は設置されていない)
- ・市営住宅建設により地域全体が大きく変わっていった。
- ・市営住宅には大きく、公営住宅と改良住宅の二つがあり、養正地域の市営住宅は改良住宅。
- ・公営住宅は公営住宅法に基づいて建設され、田畑など大きな敷地のある郊外に建つことが多く、収入の制限などをクリアすれば誰でも入居可能。公営住宅の役割は生活困窮世帯の入居や、若い子育て世代が自分の家を持つまでの間、比較的安い家賃で一時的に入居すること。
- ・一方、改良住宅は住宅地区改良事業によって、住環境改善という目的のもと、住宅が密集している地域に住民から土地を買収して、その土地の住民のための住宅として建設されたもので、建設当初の入居者はその地域に暮らす人たちに限定されていた。また改良住宅は、元々この土地に住んでいた入居者の子供や孫、その次の世代までの永住が保証されていた。ここが公営住宅と大きく異なる点。

まとめ 養正地域はかつて住環境が劣悪で、不良住宅が密集していた地域。そこに京都市が住環境改善事業を実施し、住民から土地を買収して改良住宅を建設。そのため、土地を売って入居した人やこの地域にルーツを持っている人が今も多く居住。このような歴史的な

背景や経緯から養正市営住宅が建ち、今があるため、今後進められる住宅の建て替えやまちづくりに対して、いろんな思いを持っておられる市営住宅の住民が多いと思うので、そういう住民の思いや考え、声などをぜひ聞いていただきたい。

## 若井修さんからのお話

杉山 長い間お住まいになられている若井修さんに団地再生についての思いをお聞かせいただきます。

若井修さん まず一つは、なぜ入居率が半分になってしまっているのか。京都市が交渉して空き部屋に入居してもらったら、もう少し明るい地域になる。そういうところが京都市の今までの施策から外れていると思う。市営住宅といっても改良住宅なので、なかなかそうはいかないが、我々としてはもう少したくさん入居してもらって賑やかな街にしていきたい。もう一点は、アンケートをとったところ、住み替えにあたって、いろんな意見を持っている人が多かった。今2人住まいだけど、10年後に一人になったら部屋が小さくなるのだろうかなど、いろいろな意見が出ていた。そういった話もこれから(京都市と)やっていきたい。もう一点は、保育所がそこにあるのに、この地域から通っている子供は少ししかない。小学校も、今年の1年生は1クラスしかない(昔は3～5クラスぐらい)。それだけ若い人がここに住んでないということ。こんな便利なおところに若い人がいないのは、どうもおかしい。だから、新しい市営住宅の1期目には間に合わないかもしれないが、第2期のときには、一般公募をとってほしい。若い人が入ったら子供もいて賑やかになるし、フェスティバルやお祭りなども、子供がいたら、もう少し賑やかになるが、今はお年寄りの方が多い。今後のこの会の中で、皆さんの意見があれば出していただいて、いい街を作っていきたい。

杉山 若井さんは(団地再生計画によって)大きな跡地ができるところが、どんな構造になったらいいな、こんなふうになったらいいなというイメージは？

若井さん 商業施設ができて、商業施設には人が集まっても、夜には人はいないので、商業用地ではなく、マンションなどが建って、若い人が増えて、夜でも賑やかな街になってほしい。

杉山 若井さん自身はこの地域で生まれ育ってこれ

て、地域に対する思いや思い出は？ こういうところは残してほしいとか、こういうことは残ったらいいなというようなことは？

**若井さん** やっぱり地域を残してほしい。それはなぜかという、泣いても笑っても、ここがふるさとだから。地域の外に出ていった若い子は、(今のままで)親がなくなったらそこにはもう住めないから、その子たちのふるさととはもうなくなってしまふ。だから、できれば、ふるさとであるここを残していきたい。今外に出ている若い人もここに帰ってこられるよう体制をとっていきたい。

## 参加者との質疑応答

**杉山** 質問やご意見の時間にしたいと思います。

**参加者A** 西村くん、本当によく頑張って調べてくれました。でも、少し違うところがあって、私たちは立ち退きしたくなかった。ちゃんとした家に住み、家で商売していた。そういう人が4割いたが、(行政に強引に進められ)渋々、立ち退いた。ちゃんとした一軒家に住んでいたのに、6畳、4畳半、4畳半の台所の部屋に親子5人とおばあちゃん住めと言われた。11棟の2階にある1Kは今、全部空き部屋になっている。私はここに生まれて育った。子供が結婚するときにここに住みたいと住宅公社に話したが、過密で募集していないと断られた。一時期人をどんどん入れた結果過密になって、子供が住みたいと言ってもストップと言われて入居できなかった住民もいる。でも、私はここから出たくない。ここで死にたい。だけど、10年先のまちづくりと言われても、生きているか分からないし、見られるか分からない。祭りどころか、新しい住宅の家賃がどうなるのか、引っ越しがどうなるのか。隣近所の人とも今良くしているのに、それも全部ガラガラポンされる。同じ地域の中でも、仲の良い人もいれば悪い人もいるのに。今、私は同じ階に住んでいる90代のおばあさんの面倒を見ているが、それもどうするのか。保育園の方々も心配だと思ふ。保育園がどうなるか分からないから。だから、10年先の話より、保育園がどうなるのか、私たち住民がどうなるのかのほうがもっと大事ではないのか。今日は公社の人は見えていないのか？

**杉山** 正式には(公社の方は)来ていない。10年先の話で申し訳ないが、住宅と住民の問題に関しては、私達が入ってやる話ではなく、住民の皆さんと京都市さんの間で詰めていただく問題。このミーティングでは、団地再生によってこの街が大きく変わり、その一つとして、住宅が集約をされて、今、大きな住宅が建っているところにできる広い空き土地をどんなふうにも活用していくか、というのが大きな問題。この地域は場所的にも良く、人が行き交うところでもあるので、その(空き土地の)問題はここの住民だけではなく、この周辺部の住民にも大きな影響がある。このミーティングの趣旨は、そういうところを、いろんな人に影響があるので、そのいろんな人と意見を交わしていこうということが中心。住民にとっては、住宅の問題はまさに生活に関わる大きな大事な問題なので申し訳ないが、このミーティングではそこにポイントを置くのではなく、その空き土地と、それと関係してどんな街にしていきたいかということと話していきたい。

**参加者A** それなら住民がこのミーティングに参加しても意味がない。私が生きているか分からない話に参加できないし、若い世代に知恵を絞ってもらいたい。

**杉山** それも一理あるが、どなたでも来ていただけるという形にしたい。

**参加者A** どなたでもとはいっても、みんなが周りから入れるいろんな意見をどうやってまとめるのか。一つお願いしたいのは、ここは私たちの先祖代々の土地を無理やり買上げられたところで、その空き地を利用するというのを頭に置いて話してほしい。10年先、私は生きているか分かりませんので、若い世代に頑張ってほしい。私は一番の不安を取り除く(住宅のことについて)話し合いをしたいのに、今この場ではできない。



**杉山** 申し訳ない。もしかしたら子供世代、お孫さん世代が暮らすかもしれない街のことを話すということなので。

**参加者B** 私のおじもおばもここに住んでいるが、私も、いとこたちももう(この地域から)出ている。ここに住んでいたらしんどいから出て行っている人もたくさんいるし、住みたかったけど住めない人もいる。うちの親類も、ここで長年暮らしてきて、ここで死にたいとみんな言っていたが、そういう声をしっかりと聞いて、みんなの気持ちを全部聞いて、その中からまちづくりしていくのが本来ではないのか。10年先…いやいやちょっと待ってという感じ。そんなのはいい街は作れない。

**参加者C** 住民の方の意見を聞いて、本当に感銘を受けた。でも過去は変えられない。起こった事実しか、私達は受け止められない。でも未来は変えられる。若井さんが言われたように、未来を変えていこうよと、私は思う。私の友達たちが保育所を探している世代。日本全国保育所が足りなくて待機児童がいっぱいいるのに、この養正地区だけは待機児童がない。それは部落という地域性。部落以外の方でここの保育所に預けているお母さんたちは、部落というイメージはあるけど、もう待機で待てなくて、ここならすぐ入れるから(預けている)という話も聞いた。これはすごく悲しい。養正小学校が1クラスしかない。だからクラス替えができないので、嫌いな子がいてもずっと6年間嫌いな子と一緒に過ごさないといけないから、転校して他の小学校に行ってしまうと、養正学区からますます子供がいなくなるという悪循環を生む。これは住民の方には本当に申し訳ないが、地域性(の問題)。私は未来に向けて、この地域の今までのイメージではなく、違うイメージにするまちづくりをしなければならぬと思う。ここに住みたい(と思われるような)。例えば、大阪の西成では、大阪市長が西成地区を変えようとしていますが、やっぱり西成には住みたくないという風評被害みたいなのがある。だから、私たちは新たなイメージを新しく作って養正地区に住みたいと思われるまちづくりをしていかない限り、子供たちも、若い人たちも来ない。私は子供の食生活に対して想いがあり、朝ご飯食べない子供たちは健康に悪いし、良くないと思っているので、本当は養正小学校の家庭科室を借りて、子供たちに朝ご飯を提供するというボランティアをやりたい。もう何年もかけて実現しようとしているが、なかなか進まない。だから、そういうことからやっていきたい。養正小学校に通ったら子供たちの朝ご飯も50円で食べられて、みんなが健康で、成績も伸びたというイメージ作りから始めたらどうかという意見を持っている。

**参加者D** 会としてぜひ整理をしていただきたいのは、一般的な、自由に街をつくっていくのではなく、改良事業という制約の中でまちづくりをされ、60年間、町内がどうなったのか。実態的には当時の住民の3分の1も残っていない。ほとんどの方が出て行ってしまった。これは改良事業という制約の中での問題。それともう一点は、鉄筋コンクリートで高層(低いところでも3階建てや4階建て)の団地。しかも持ち家ではなく全員が家賃(を払う)というところは、同和問題や改良事業だけではなくてどこの団地でも、京都にもたくさんあるが、そういうところが10年先、20年先どうなるのか。これからこの町内もいろいろ整理をされて、まちづくりをするが、結局また高層化で、鉄筋(の住宅)で全員家賃(を払う)。このようなまちづくりをして、本当に、前に町内に住んでいた人たちが家賃を出してまで住みたいのか。高層化され、全員が家賃を渡し、自分の家でないという街がどういう方向で展開されるのかという問題点が、ここだけではなくてもう既にいるんなところで出ている。だから一度、この会として、その中でどういうまちづくりをするのか、この町内が過疎化してしまっている実態が何なのかというのを整理しないと、ただ単にみんなが、みんなが、みんながといっても、そのような高層化され、家賃化された団地が本当にみんな長期にまちづくりができるのか。私も改良事業の中で出て行った。それまでは地蔵盆もす



ごかった。路地ごとにお地蔵さんがあって、家ごとにみんな提灯吊って、神輿も出した。そういう街が改良事業によって全部なくなってしまった。そういうことも含めて整理をし、今後また同じように高層化で家賃化された団地のまちづくりが、20年先、30年先、どうなのかという点でしっかり教訓を学んでおかないと、いいまちづくりにならない。養正学区や田中の地域そのものが衰退化しただけではなく、小学校を廃止する話があるとも聞く。それだけ養正学区全体にも大きなまちづくりの問題があり、ここの絡みを含めて、養正学区全体をどう回していくのか、若い人たちがどうするのかという課題も含むので、ぜひそういう方向できちり整理をしていただきたい。そしてそのことをみんなに提案して、どういう街がいいのかというのを検討していただきたい。

**杉山** その辺は整理していきたいと思うが、私達(主催者側)が何かの案を提案するのではなく、みんなで話し合いたい。なぜかというまじづくりの主役は住民だから。貴重なご意見をいただきながら、それぞれで考えていながらあるビジョンが見えてくることを期待。

**参加者E** 近隣住民。前回も参加。自分の子供も将来養正小学校に進むと思うので、10年先がどうなっているのかというのは気になるし、先のことを見据えて考えていくことは大切なことだと思うが、その前提として、一番大切なことは、今ここに住まわれている方の視点をまず持たないといけない。自分の希望とは反してここから出ざるを得なかった、自分がしたかったことがあったのにそれもできないまま、行政の方からこうしろと言われて、やむを得ず移らなければいけなかったという歴史があったということ。まずそれはここに参加されているメンバーも、これに関わる方も、まず押さえないといけない。それがきちんと共有された中で、まちづくりをどうするのかということを進めることが重要なことではないか。ここに住まわれている方が、住宅を移るとなったときに、今、作られてきた人間関係はどうなるのかとおっしゃったのは当然だと思う。今度強制的に移るとなったときに、今まで作ってきた人間関係をまたゼロから作り直さないといけないのかというのは一番の心配事であり、課題であり、それをどのようにカバーできるまちづくりをしていくのか、そのためにどういうことができるのかという話ができないといけない。まず今住まわれている方の意見が今回の本質だと思うので、そこをきちんと共有しながら、もう少し話を深めていくことが大事。この会議の記録をきちんと残して、それを共有することも大事。こういう話が出た、意見があった、こういうふうになっているということ、ホームページなどできちんと開示していくことが大事。そういうことは残してプロセスを積み上げていかないと、せっかく話したこともこの場でしか残らない。今日の話はすごく大事なことだし、もっと周りの人に知ってもらわないといけないと思うので、そういった視点できちりと残したものを発信することも事務局にお願いしたい。

**杉山** それは残して、来られなかった人にも見られるような形にする。ニュースレターのような形で事業報告をやっている。録音してそれを残すようにしている。

**参加者F** 元田中駅の近くに住んでいる。元田中のあたりに引っ越してきて30年。当時、子供たちが小さくて、ここの保育園に入りたかったが、ここは入れないと言われた。なぜ入れてもらえないのか全然分からない。なぜ私は入れないのか、分かる説明が一度もなかった。子供は養正小学校へ行って、他のみんなと一緒に勉強したり、一緒にお芝居をやらうと呼んでもらったりしていたけど、うちの子供は入れてもらえない。でもなぜ入れてもらえないのか分からないということがずっと重なっていった。今日初めて、ここに長く住まれてきた方のお話を聞いてすごく感動している。この地域が部落で、差別を受けていることは知っていたし、私が引っ越してきたときになせ田中に住むんだとか、すごく差別的なことを言う人がいて、すごく頭にきて、それが嫌だった。初めて今日、ここの住宅ができたときのこととか、住民の声を初めて聞いて、初めてこういう機会を持ったことをすごくありがたいと思う。住宅を集めて大きな跡地ができるというのは、もうそれは一体どこまで進んでいるのか。今日初めて聞いてびっくりしたが、ここで何が決められ、要望を出せるのか、どう

いう会なのか。住まれている方の思いや、ああしてほしい、こうしてほしいということが実現できないと思う。ただ意見を聞くのではなく、どこまで計画が進んでしまっていて、いろんなここで出た意見がどういうふうに活かされるのか、活かすことができるのか、できないのか教えてほしい。

**杉山** まず前回、第1回のミーティングで京都市の方から伺ったのは、21棟という一番新しい棟を残して、他の古い棟は高層棟も含めて全部取り壊しになる。それは耐震構造老朽化が主たる理由。南と北に二つ新しい棟が建って、そこに集約をされる。ここまでは決まっている。集約をして、今建っている棟を取り壊してできる。跡地の問題などはまだ決まっていない。建て替えのことは段取りももう進んでいて、もうすぐスター住宅といわれるY字型の住宅3棟が取り壊されて、そこに新しいものが建つ段取りが始まろうとしているということ。この会の特徴は、古い建物を壊して新しいのを建てて、そこに今お住まいの方は入居されるという物理的なことだけではなくて、空いた土地をどんなことに使うのかということ、この住宅の方だけではなくてその周辺部にも影響を及ぼす大きな問題になってくるので、ここの住民だけではなく周辺部にお住まいの方や関心のある方、いろんな人に来てもらって、いろんな意見を出してもらおうのが第一の目的。そして、いろんな意見を聞きながら、最終的には、ディスカッション、ワークショップのような形で意見集約を図って、ある方向性を見だし、京都市に提案したいというのがこの会の目的。なので、どうするという答えは何もまだ一切ない。まずは、第1回目は団地再生計画がどうなっているのかを知りましょう。そして今日2回目は、ここの市営住宅のことを知りましょうという趣旨。ここにはそういう歴史があるので、それを知らないで議論をすることは難しいから。今後、回を重ねるごとに、これから10年後、20年後に社会の中心になっていける若い世代の方の意見も聞きたいし、専門家の意見も聞きたい。そういうものを聞いた上でいろんな人たちにここに寄ってもらって話ができたらいい。

**浅井** 自分の息子たちも、この学区から出ているが、今後これから展開されるこの地域の再生計画は、自分のことの利益を求めただけではない。引越しに関わるいろんな不安もいっぱいあると思うが、それとは別に、この地域に住んでいる子供の世代や、孫の世代の、将来にわたるこの地域の人たちに(向けて)どのような形でこの養正市営住宅の再生を進めていくのかということをお求められている。もしこの地域がすごく魅力的な土地になれば、子供たちが帰ってくる可能性も高まるだろう。この地域が好きで、この地域に愛着を持っているから、自分の利益を求めて不安がるだけではなく、この地域の次世代の子供たち、孫の世代に良いものを残せたらなという思いが強い。今生きているうちに、この地域をなるべく魅力的な土地にもしてできるならば、子供や孫も帰ってくる可能性も高まることを期待しながら、次の世代に良いものを残しておきたい。みんなそれぞれ、いろんな意見がある。この同和地域にお住まいだった方も、持ち家に住んでいた人も、借家に住んでいた人もいた。その両者の違いは大きい。思いも違う。だから一人一人意見が違って当然で、それを認め合っていく、尊重し合っていくのは、多様性を尊重しながらやっていこうというデルタフェスティバルの目的の一つでもあるので、お祭りをやりながら、いろんな人のいろんな異なる意見を共有しながら、気持ちを分かりながら、将来に向けてどうしたらいいのかという話。今住んでいる方の思いは大事にするのは当然。

**参加者A** 一番に言いたいのは、私たちは、同和、部落、その言葉からいつ解放されるのか。結局はずっとそう。子供や孫が帰ってきて、この地域は部落。今は(京都市側は)同和対策という言葉を使わないけど、同和、改良住宅という言葉は一生ついてくる。娘息子や孫がここに住みたいと言っても、養正小学校で朝もご飯を出して頑張っていこうと思っても、私たちは孫の代までこの言葉から解放されない。それは自分たちが決めることではなく、周りの人たちにそう思われる。

**参加者G** 私は(同和、部落というのは)もうどんどん薄れていっていると思うが、20代、30代の方はどれぐ

らい最初から同和ということをご存知でしたか？

**浅井** ここに住んでいる方にも、いろんな人がいる。ここに生まれ育っている人もいれば、他府県から移住してきた人もいて、その人たちで本当に落差が大きい。

**参加者H** 私はここに70年住んで、同和という言葉は聞いたが、気にはしなかった。小学校の頃、まだ市営住宅がない頃に(友達の家に)遊びに行くと、狭い路地で、うわ、すごいところだなと感じたけど、それだけで、学校でも、同和の人も、それ以外の方もおられるし、基本的には差別意識とかはなかった。もう一つ。新棟は基本的に3種類(の住戸タイプ)があって、3人用が60平米と(書類に)書いてあるが、これは絶対に狭い。これでは、子供が結婚したら出ていかなければいけない。住むところがないから出ていく。それでは街は絶対に廃れる。



新しく作る建物も、10年後、20年後にまたゴーストタウン化する。90平米ぐらいの、家族3世代が住めるような部屋を絶対に作らないといけない。それと単身者用に、90平米の部屋の間に仕切りを入れて4畳半ぐらいにして、学生さんなどがシェアハウスして4人で暮らせるような部屋を作れば若い人も増えて、例えば大学生が4年間住んで、さらに何年間かプラスアルファして住んで京都市から通勤すれば市民税も増えるし、結婚したら永住のローテーションが組める。年寄りも4人でシェアハウスしたらお互いに見守りながら暮らせるし、介護保険料も減る。だからもっと広い部屋を作って、3世代が住める構想でやらないといけない。

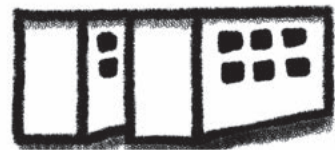
**浅井** 住宅のニーズはとかが経つにつれて変わる。前から京都市の住宅の方には、将来、二つの部屋の間の壁をぶち破って一つの広い部屋にするとか、そのときのニーズに合うような形に変えやすい設計を最初からすべきではないかという話をしてる。今、全国いろんな団地で、高齢化と老朽化でうまく使えないところが出てきているので、その時代に合うような形に自分たちで変えられるようにすべきだとは言っている。建物の内装は自由に変えられるようにして、その時代に合うような、若い世代に求められるようなものに作り変えることが可能な共同住宅にすべきだ。そうでないと、アパートを建てたのに、20年後、30年後に誰も住みたくない、使いたくないというものがばかり増えて税金の無駄。だから、今までデルタフェスティバルの実行委員会では、活用予定エリアをどうするかということだけで絞ろうとしてきたが、どれだけ力になれるかは分からないが、住民の意見をサポートしていく必要はあると思う。

**参加者I** 高野在住で、大学に勤めている、団地やニュータウンの計画に携わってきた技術者。その立場からいって、一つは、この会自体の性格をきちっと明示して議論のルールを定めた方がいい。例えば、個別の住宅の話の要望の話をする場ではないという話があったが、大きな街の話をするところであっても、出てきた言葉を、ここですることではありませんと言ってしまったら話が終わってしまうので、基本的には何でも言えるようにするか、あるいは話を最後までちゃんと聞くとか、ルールをきちっと決めて前に出すべき。この会の性格と議論のルールを定めてそれを共有した上で議論するようにすべき。もう一つは、この地域にこれからどんどん新しい人たちや若い人たちに来てほしいという話もあったので、おそらくそういうまちづくりになっていくと思うが、街のイメージをかつてのものをなくして完全に変わってしまっているのかというのは非常に難しい議論になる。両方の話が出ているが、ここで元々土地や家を持っていたりした方もいる、それから建て替わってからも、いろんな街の景色を懐かしく思っている方がいるというのは、絶対に大事にしないといけない。UR(かつての住宅公団)では、最近、古い団地を建て替える前に、思い出のある木とか、お地蔵さんとか、ここの石垣すごく懐かしいとか、全部徹底的に聞い

て、計画に活かせる、活かせないはあるけど、そういう環境資産調査を行ってその次の建て替え計画に反映させることをやっている。それと同じように、この街の中にどんな思い出があって、皆さんが何を大事に思ってきたのか、何を残したいと思っているのかを、ちゃんと皆さんの話を聞いた上で、ぼんやりした要望ではなく、設計に落とし込めるような形で設計者に伝えなければいけない。そういうことが必要。ここの住民が何を大事に思っているのかということが次のこの街の個性にも繋がっていくことなので、それをきちんと踏まえないといけない。だから、隣町から来た人とここにお住まいの方の話を完全に平等に扱うのではなく、ここの主体として生きてきた人たちが何を大事に思われてきたのかという声をきちんととどめないといけない。都市計画やまちづくりでもそのような議論がある。ここは楽しい議論をする場ではなく、市に要求を付きつけたりする場所ではないと思うが、一つ絶対に約束しなければいけないことがあって、それは、活用エリアに関して、その土地をお持ちだった方もいる中で、そこに、例えばこの会と無関係に、どこかのデベロッパーに売るとか、そういう話が突然降って湧いてきたら、絶対に怒らなければいけない。前回のときにはその方針は出ていまして、市役所(の方は)言ったが、その時にそこがどういう使われ方をするのか、施設内容だけではなく、このまちづくりの中でそういう施設がどう活きるのかというマネジメントの話もちゃんとしていかなければいけないということを市役所の方を交えて話した。その話の上にこの会があるので、これを無視してどこかのマンション業者に売るとか、どこかの有名なスーパーマーケットに来てもらうことにしたという話になったら、怒ってもいいと思う。まちづくりについては、市役所も勝手にやっていくのではなく、ちゃんと意見を聞いてくださいね、正直に話してくださいねという話をしていかなければいけない。きつい要望とかをする場ではなくても、これだけは約束だと思う。

**参加者B** いい街とは、皆が安心して暮らしていける街。安心してずっと生きていける街。改良住宅を作るときも、皆さんの要望がどれだけそこに反映したのか、地元の人々の声がどれだけ活きたのかということの検証もいる。つまり住民が自主的に決めてこれなのか、住民自治があったのか。もしなかったとしたらそれはなぜなのか。それはやっぱり差別があったから。これは過去を振り返ってばかりなのではなく、その中で生きてきた人たちの声の中にヒントがきっとたくさんあるはず。これから先、孤立無援になったり、お金がなくなって不安な思いをしたり、病気になったり、誰しにも起きるときに、どうやったら安心して生きていけるかと考えるときに、やっぱりたくさん声を聞くこと、そして、こういう場所だからこそ、そういう人たちが、部落の人とか部落じゃない人とか関係なく、みんながよりどころになるようなシンボリックなものを作っていけるかもしれない。住民自治があったのか、そういう検証はぜひしてほしい。ここはそういう話をするところではないですということには本当に言わないでいただきたい。何でも言っていける場なのか、または、こういうことに特化して話をする場ですというふうに分けられるのか。区切ってしまわれるなら、そういう場所を別で作るという話になる。みんなの声を聞いてくれると思って信頼をして集まっているので、そういう話はよそでしてくれなんてことはもう二度と言わないでいただきたい。どういう場所なのかというのはしっかりもう一度練り直して提示して欲しい。

**参加者J** 養正学区に住んで40数年、京都に来て50年。子供たちは、上の子は養徳小学校、下の子は養正小学校に通っていた。(養正小学校は)今や一学年20人の1クラス。運動会も、学習発表会もすごく寂しいだろう。せめて2クラスか3クラス。みんなで育て上げるような、活気のある小学校であってほしい。儲けのための商業施設やイベント施設はいらない。今時の若い人は非正規で働いていて、生活が大変だから、あそこは定額で入



れるというような住宅をたくさん建てて欲しい。駅も近いし、仕事に通うのにもとてもいい立地だし、周りには緑がいっぱいある。そのようなところで儲け本位の、どこかに売り飛ばすようなことはやめてほしい。あと災害時のことを考えると、養正小学校の広さでは、(災害時の避難場所としては狭すぎて)役に立たない。だからそういう(避難場所になるような)建物がたくさん欲しい。さっきご要望で3世代同居とあったが、これからの若い人たちがそれを望むかどうかというのがあるが、いざそうなったときにこの地域を離れずに、老後も最後までそこで過ごせるような介護施設とかをもう少したくさん作っておけば、災害時でも活用できると思うので、ぜひそのようなことも考えてほしい。それとも一つ、今度建てると言っている住宅は改良住宅なのか、それとも公営住宅なのか、どちらなのか？

**京都市の方** 今、改良住宅を建て替える場合は、更新住宅と言う。住宅地区改良法に基づいた名称。特別な意味があるわけではないが、国の要望に基づいてやるので、更新住宅という名称になっている。改良住宅の流れを汲んでいるが、(名称としては)更新住宅。公営住宅ではない。

**Q.** ということは改良住宅の継続か？新たな人は入れないのか？

**京都市の方** 今回は改良住宅の建て替えによって、今お住まいの方を優先的に。公営住宅の建て替えの場合場合もそう。

**参加者K** 隣町から。言葉の遊びをされているように感じるが、更新住宅の法的な根拠は何ですか？おっしゃっている意味が全然分からない。更新住宅って何ですか？

**京都市の方** 国からの補助の要綱に、更新住宅という名称が入っている。改良住宅を建て替えるので、改良住宅の流れをとっております。

**参加者K** 改良住宅法ではないのか？

**京都市の方** 住宅地区改良法ではない。改良事業という部分では一緒だが、対象になる要綱が、国のその要綱に基づいている。

**Q.** それはつまり、改良住宅ということは、外部から人が新たに入れられないのか？

**京都市の方** 今、現にお住まいの方がいらっしゃる住宅が老朽化等しているの、それを建て替えるのが今回の趣旨。公営住宅を建て替える場合も、現にお住まいの方は、建て替えのときに入らせていただくということでは同じ。

**若井さん** (京都市の)住宅の方がおっしゃったのは、要するに、国からお金を取るためにやっているということ。京都市はお金が出せないの、国に申告して国のお金を少しでもいただくために、国の法律にのっとって物事が進んでいる。

**参加者A** それならそれでいいけれど、過去、(京都市は)今まで条件をコロコロ変えた。息子が結婚するときは過密なので入居できないと言われた。今後はどうなるのか。孫は3親等になるが、自分が死んだとしてもここに住めるのか。

**京都市の方** 詳細は公社に聞いていただきたいが、承継する届もある。今日は公社がないくて、私達は建て替える設置者の方で来ているが、またお問い合わせいただいたら、そういう疑問はお答えさせていただく。

**Q.** 周辺の人が入りたいと言ったら入れるのか？

**京都市の方** まずは、建て替えのときは今お住まいの方の分。今後、空き部屋が出てきたら、その場合は、有効活用として公募ということも当然ある。今日はオブザーバーで来ていて、いろんな方の声を聞くつもりで、細かい回答をする場とは思っていなかったの、勉強できていないところもあり、非常に申し訳ない。今後、総合的に担当としてやっていくにあたって、いろんな皆さんのお話を聞きたいと思って、来た。

**参加者L** 今の話を聞くと、建て替えの時はこの地域の中に住んでいる人しか入れない。私は住んでよかったと思う地域を望んでいる。長い歴史の中で苦勞もあり、差別もいっぱいあったが、将来、若い子たちに夢を持たせられる、住んでよかったという地域を望んでいる。だからこの地域の中の人たちしか入れないとか、空いたら一般公募をやるとか、そういうあいまいな住宅施策はやめてほしい。住民の意見を何も聞かずに、勝手に耐震が持たないから建て替えますよとって私たち住民が振り回されているような感じ。今日は周辺の方の貴重な意見を聞かせてもらった。こういうことを総合的に考えて、この街が良くなるようなことを考えていきたい。

**参加者A** だからこの話し合いのたびに、公社の人がいるべき。

**参加者K** 大事にしてほしいのは、京都市(の担当者)はこのミーティングの中には必ず参加いただきたい。そこで答えられることがあれば、お答えいただき、答えることができないのなら持ち帰るという形で対応いただきたい。それが一つと、今半分ぐらいしか入居者がいない地域になってきているということについて、京都市はこの地区を改良住宅型に作っていったことについてどのような反省を持てるのか、どのような評価をしたのか。あるいは内部的な検討をしたのかということ、住民に明らかにしていただくという作業がどうしても必要ではないか。京都市の方は、今日(この会の内容を)お持ち帰りいただいて、丁寧に、実はこういうことがまずかった、こういう問題が後で出てきたというふうな話も含めて、出していただきたい。住宅を作るのは京都市だから、京都市がどう考えているのか、この会議のこれからは大きな禍根を残さないためにも、行政の姿勢を明確にしていきたい。

**参加者M** 京都府南丹市の同和地区で生まれ育ち、部落問題の研究をしていて、養正がどう変わっていくかに興味を持って参加している。前回第1回で説明があった京都市の計画にどこまで住民の声が含まれているかが一番大事。もし含まれていないのなら、含む作業から始めないといけなのではないか。それができていないから皆さんから拒否反応が出ているのでは。それをやりながら、その上で、空き地ができそうというのをもう一回確認できたときに、こういう構成体で外部の人も入ってもらいながらどうするかというのを考えるといいのでは。なぜそう思うかということ、住民には生活に直接関わってくる。本当に日常的な、ご飯を食べるとか

そういうレベルのことで関わってくると思うので、前回、住棟と住棟の間が離れたらコミュニケーションが取りづらくなるのではないかという意見も出ていたが、そういうことも本当は住民がもっと考えられる権利がないと、居住の権利や自由に生きる権利をないがしろにされるということに繋がるのではないか。そういうことがちゃんと保障された上での議論が必要と感じた。

**参加者N** 公営住宅か改良住宅かという話よりも、問題の根本は、国がこういう公的な住宅を増やしたくないと締め付けていて、京都市もそれに乗っている。だから法律を超えて、今住んでいる人の分しか(お金を)出せないという制約があると思う。財政的な制約にもう少し余裕を持って建ててくれたら、入りたい人も入れるし、いろいろ解決するが、ギリギリ今住んでいる人の分しか建てられないので、いろんな愚痴を生んでいる。法律はある程度解釈のしようがあるのだろう。そういう財政的な締めつけをせずに、また公的な住宅を(減らすという)固い決意を市とかが持って欲しくない。入りたい人がいて、安定所得の人もいっぱいいて、便利などところに立っているのだから、そこに住みたいという人をもっと入れてあげられるように余裕を持ってほしい。

**杉山** 私達もビジョンを明確に、答えやゴールを持って今やっているわけではないので、できるだけこのような意見を聞きながら、軌道修正しながらいきたい。今回、(会の)ルールを決めた方がいいのではないかと、会の性格をもう少し明確にした方がいいのではないかとこの意見をいただいたので、その辺をもう一度検討したい。今日は非常にフランクな意見をたくさんいただいて、とても良かった。京都市の方も突然振られたけど、正直な意見を言うてくださったので、そうやって話し合いをすることが大事だと今日聞いていて感じた。もう一度、今回やってみて軌道修正をしながらどういう会にしていくかということをも、実行委員会の中で考えたい。

**浅井** 基本的には、改良住宅という名前かどうかは別にして、今の住民の方を対象に、耐震で新しくするという考え方。それは国からの補助金を有効活用しようという流れの中で出てきているし、京都市が公営住宅を新たに作るという方向ではない。新しい住宅棟は今の住民の方だけが対象だが、それ(住棟が集約されること)によって、活用予定エリアと呼んでいる空き地ができる。市がそこに公営住宅をつくることは考えられないが、そこに民間のアパートや共同住宅を呼び込むことも可能だし、そこに民間の力を利用して、この地域に子育て世代を含む住民が増えるということが一番望んでいる。活用予定エリアについてはまだ全然未定ということも前回のミーティングのときに京都市側がおっしゃっているの、そこをどのように街にしていってほしいのかということが最終的な目標。そこに至るまでに、いろいろな思いのある方がたくさんおられるし、現在そこにお住まいの方はより強い気持ちがあるのは当然なので、そういう多様な意見をどのようにまとめ上げていくかというのは難しいところではあるが、それをあえて挑戦してやっていきたい。まだこのまちづくりミーティングのやり方に関して全然決まっていることはなく、皆さんの意見を聞きながら、随時それにふさわしいような形に変えていきたい。

養正市営住宅団地「未来のまちづくりミーティング 通信 Vol.2」

編集・文章構成：南知明  
発行：かもがわデルタフェスティバル実行委員会

■ かもがわデルタフェスティバル実行委員会 参加団体

京都学生演劇祭実行委員会、京都 TeraCoya、左京西部いきいき市民活動センター（指定管理者：特定非営利活動法人劇研）、人権連、田中神輿会、特定非営利活動法人 YT まちづくりの会、部落解放同盟田中支部、養正学区各種団体連絡協議会、養正学区社会福祉協議会、養正たすけあいの会（50音順）

■ オブザーバー

鈴木暁子（京都地域未来創造センター）  
吉田泰基（京都市まちづくりアドバイザー左京区担当）  
京都市住宅室すまいまちづくり課

第2回議事録は  
こちらから



SNSでも情報を発信中！

Twitter



@kamo\_delfes

Facebook



@kamo.delfes

Instagram



@KAMO\_DELFES